

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年 5月31日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200168
法人名	特定非営利活動法人 ケアネットあいら
事業所名	グループホーム 明倫館
所在地	鹿児島県始良市加治木町木田1133番地 (電話) 0995-62-5650
自己評価作成日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年4月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型のサービスとしてグループホームは、まず地域の方々に施設の存在を知って頂き、気軽に訪ねて来て頂けるように掲示板を設置している。その意味において施設が各となり介護劇を行ったり、近隣の施設と協力するなどして子供を含めた認知症の啓蒙活動を行っている。このような出会いを通じ、地域との架け橋になったり、困っていることがあったら、気軽に相談して頂けるような関係が築けたらとの想いで活動を行っている。そうして地域の方とグループホームが共に助け合って、地域の方が住み慣れた所でいつまでも暮らしていけるように、お手伝いできたらと考えている。当ホームの特徴として、どの居室からもすぐに避難出来るようにと周囲にテラスを設置することで、緊急時への対応を行っている。多くの女性が勤務していることに配慮し、時間をやりくりするなどして、保育園に迎えに行ってもらうなど、心身共に健康でなければ良いお世話ができないとの考えの基でマッサージ機を用意するなど負担軽減を実施している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くにスーパー、商店や病院などがある利便性が高い地域に建ち、行事や災害対策などは連携しながらサービスに当たっている。家庭的な雰囲気はただよい、利用者や職員の笑い声が聞こえる。職員は地域の利用者ニーズに真摯に向き合う事業所の特色が自信やモチベーションにつながり、職員自身も「笑顔のある安心してくらせる施設」に向け努力がみられる事業所である。

## ○残存能力の向上

ホームは介護者主体ではなく、利用者が家庭的にいかにか気持ちよく過ごせるかを考えられ、オムツをなるべく使わない方針を掲げ、利用者の残存能力の向上を図るべく支援が行われている。

## ○ 職員の丁寧な声掛けと対応

独自にコンプライアンスルールを作成し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう、常に職員も注意を払い、一人ひとりの人格を尊重したケアを心がけケアの基本としている。

## ○ 目標を設定し向上心のある職員を育成

計画的な職員研修体制が整い、資格取得にも積極的である。今年度は介護福祉士を4名育成した実績もある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域と共にあなたを支えます」を基本理念として謳い、毎朝申し送り時、職員全員で復唱することで確認、共有しています。	基本理念には「地域と共にあなたを支えます」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。またコンプライアンスルールをたて職員、家族間で共有され、よりよい介護をめざしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、施設の掲示板や回覧板にホームの便りを掲示、回覧するなどまた、職員も自治会員の役割としてごみ当番を果たすなどしています。	近所の方たちとは野菜の差し入れを頂いたり、防災応援を隣家をお願いしている。自治会に入会し、地域の催しに参加したり、広報誌の回覧を行っている。散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより地域との関係づくりに力を入れている。保育園等との交流会やボランティアの受け入れを行い、日常的に交流が行われている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	当ホームが主体となり介護劇団を結成して介護の日等に始良市からの依頼を受け、介護劇、講演をするなど、子どもを対象とした認知症サポーター養成講座に係るなどの活動を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、地域（議員、民生委員、自治会）の代表、行政関係者（介護保険担当者）の方に参加を頂いている。評価の結果報告や状況報告を行い、意見等を頂き日々のケアに生かしている。	2ヶ月に1回開催され、事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。外部評価の取り組みでは参加者に評価結果のコピーを配布したり、玄関に掲示するなど共有が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政主催の研修等にも参加し、担当者と適宜連絡を取り、相談・助言を頂いている。また、管理者は行政連絡員・自治会長等の役を活用するなどして、密に連絡を取り合っている。	頻繁に市担当窓口や包括支援センターなどへ事務手続きやその他の機会に訪問し問題や事故や認定手続きなどの情報交換を行ったり、介護の日の記念行事では市担当窓口と連携し介護劇を発表するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設として、身体拘束排除宣言を行い、掲示してコールマット、センサー等を活用するなどして安全面に配慮、日中は玄関等鍵を掛けずに、人の出入りが自由にできるようにしている。このように職員全体で身体拘束ゼロを目指して実践している。	玄関に身体拘束排除宣言を掲示し、マニュアルを作成し研修を行い廃止委員会を設置している。夜間はセンサー等を利用し玄関をはじめ各居室に鍵をかけた自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。	
7	0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送り時、利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）を職員で黙読することにおいて虐待行為についての確認を行い、利用者が気持ち良く生活して頂けるようケア、言葉かけなどに注意している。		
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年末、退所された利用者に成年後見制度を利用されていた方がおられ、そのこともあり、管理者より職員に対し、この制度について説明を行うなどした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	0	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書・重要事項について説明を行い、不安なく過ごして頂けるよう努めている。退所時も段階を追って話し合いを持ち、関係機関との連携を取り、責任を持って行先を決めるまでの援助を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が参加して頂ける行事を多く設けることにより、家族相互の交流を図る。またこの機会を通じて介護職員との対話の時間を設ける。この様なことにおいて何でも言える雰囲気作りを努めている。	玄関に相談窓口を表示すると共に重要事項説明書に相談窓口を記載している。家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。利用者ごとに連絡帳をつくり、家族からの意見は、パソコンを活用して他の職員と共有し、必要な場合は職員ミーティングで話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月二回のスタッフミーティング、必要に応じて個別面談等を実施。互助会を活用するなどして、より率直な意見の集約に努めるなどの工夫を行っている。	朝の申し送り、ミーティング時に勤務体制などの話し合いをもったり、管理者は気軽に声をかけやすい雰囲気作りを心がけている。個人評価表を活用し、悩みがありそうな職員には個別面談を行い早期に問題解決を図っている。	
12	0	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	女性多の職場であることを踏まえ、保育園の送り迎え等に配慮するなどしている。また、資格を得た際に報奨金を出すなど、今年度から退職金制度を雇用者全額負担で導入するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	0	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得の研修会に参加できるよう、勤務の調整などを行い、多くの研修会により負担なく参加できるように研修費の負担を行っている。業務に支障のない限り、希望者全員参加できるようにしている。</p>		
14	0	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修会の参加を通じて、他のグループホームとの情報・意見交換を行いサービスの向上に努めている。また介護劇団を通じての交流もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	0	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用前に必ず、面会を実施して、本人、触れ合いを通じてより、スムーズに利用ができるようにしている。また、必要に応じて、利用前に数回の面会を実施することもある。		
16	0	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記のことも踏まえ、家族のみならず、関係者（担当ケアマネージャー等）の方との面談を行い、入所時の記録として要望等を伺い記録として残すなどして関係づくりに努めている。		
17	0	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の計画において、まず何が当面の支援として必要か。このことに、特に本人の希望に配慮しつつ、御家族の心身の負担軽減に留意して端的に暫定プランを作成することに努めている。		
18	0	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・ご家族・職員は「明倫館家族」の共に一員として、時に職員の家族も行事等に参加するなどして垣根を意識せず暮らし仲間づくりを実践するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	0	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年度初めに年間事業計画を送付するなどして、遠方の御家族へも可能な限り施設の行事に参加して頂く体制を整え、行事の際手伝って頂いたり、草刈り等清掃活動にも協力してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の自治会に加入し、また地域で行われる催しに共催、参加するなどしている。例えば、花見も近くの公園を利用するなど、馴染みの場所にお連れするなどしている。	家族や本人とのふれあいや会話の中から把握したことは、入居者台帳や利用者台帳を活用し、利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるよう面会、電話の支援や、墓参りや馴染みの店への買い物などの支援を行っている。	
21	0	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最近、同地域の利用者の方が多くなってきていることもあり、ユニット間の相互交流が常時できるよう配慮している。また孤立している時は、職員が寄り添うなどの配慮をおこなっている。		
22	0	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された方はお見舞いに行ったり、再入所の希望の際は配慮を行っている。亡くなられた時は、通夜・告別式に参列や受付をするなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎朝、一人ひとりへの挨拶を行うことから始め、また思いを伝えることが難しい方もおられるが、毎日の関わりや家族との話し合い等を通して、ポジティブにと検討を行っている。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ミーティングやサービス担当者会議などの場で職員間の共有をはかっている。	
24	0	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、自宅等を訪問するなど、これまでの生活状況などについては本人・家族・担当ケアマネ等関係者からの情報も得ている。その後も自宅を含め、関係者宅の訪問も行っている。		
25	0	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のこれまでの生活スタイルを重視し、本人の意思を尊重して、一日を過ごして頂いている。手仕事記憶の活用など、出来ることに注目して支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医師・スタッフの意見を反映したプランを作成は無論のこと。利用者の心身に変化が生じた際は再アセスメントを実施し、プランを作成している。モニタリングは一か月毎に実施している。	本人も参加した担当者会議を開き、家族や主治医の意見を取り入れながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合い、介護計画を作成することで、職員はすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	0	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を項目毎にケア記録等に記入し、変化が生じた時はケア記録のみならず、連絡帳等にも記入するなどして、逐次利用者の変化について職員間で共有している。		
28	0	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方にいる方、高齢の方等家族の状況に配慮し、通院の送迎、付き添い、入院中の洗濯、衣類の準備、食事介助など適宜対応している。		
29	0	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事等に保育園児の定期的な参加のみならず、地域の施設との協力して催しを実施するなどして地域資源の活用を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療計画の契約を結んでおり、主治医による月二回の往診を受けている。体調不良時は施設側で受診したり、往診して頂くことでの対応を実施している。	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めていく。治療受診時も適切な治療が受けられるように往診記録や受診記録等で情報共有に努めており、良い関係がつけられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	0	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置していることで、介護職員は勤務時間のみならず、適宜看護職員へ情報を送れる体制を取っている。また、会議等を通じて看護に対する勉強会を実施するなど看護・介護職員の関わりが来ている。		
32	0	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、頻繁に面会に伺い、医師からの病状説明にも同席させて頂き、医療相談員等病院関係者との連携を取りながら、退院後の生活の相談・指導を受けている。また退院後通院の際にも経過報告するなど関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞き、ホームでどこまで出来るかを説明するなど納得して頂いた上で、終末に対する対応方針を決めている。無論直接、現在の病状を医師より説明して頂くと共にアドバイスを参考にして関係医療機関と連携を取り支援している。	重度化や看取りに関する指針を定め、契約時に本人と家族に同意を得ている。その上で状態に変化がみられた際は、本人や家族、医師に相談し関係者全員で支援できる体制を整えており、過去に看取りの経験もある。	
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を配置していることを利点として、職員会議を利用するなどして研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食を準備していることは無論のこと、同敷地内の御家族にも協力を頂いて非常通報先として一番に駆けつけて頂けるよう関係を平常から結んでいる。	避難訓練や消火訓練を行うとともに、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。隣家住民とは応援要請し理解してもらい、呼び掛けた結果協力して災害対策体制を整えている。ただ、夜間想定訓練と備蓄の飲料水の確認できなかった。	事業所として、夜間想定避難訓練と飲料水の確保を今年度中には計画しており、今後は定期的に確認していく意向である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の申し送り時、利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）にて確認を行い、利用者が気持ち良く生活して頂けるようケア、ことば掛けなどに注意している。	理念を基にした利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）を作成し、玄関に掲示している。入居者へ言葉かけは十分注意し、自己決定しやすいように心掛けている。また、記録等は事務室の棚に保管し外来者の目につかないように配慮している。	
37	0	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ポジティブプランは無論のこと、具体的に例を示すなどしたりして、思いを伝えやすいような声かけを心掛けている。		
38	0	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に、起床・食事・就寝などは、利用者一人一人のペースに合わせて行っている。しかしながら散歩・入浴は日課優先にて行っていることはいない。		
39	0	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服選びが可能な方は、自ら行って頂いたり、職員同伴にて買い物の際は選んで頂いている。パーマを希望される方もおられ、実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを取り入れたり、嫌いなものは他の献立に変更したり、食材の大きさ、形態も各自の状況に応じて行っている。準備・後片付けなど、声掛けを行い出来ることは手伝って頂いている。	毎食写真を撮り記録を残し、栄養バランスや盛り付けなどの確認を行っている。入居者と差し入れられた野菜を見ながら、食事の希望や食欲を引き出す工夫をし、その日のメニューを変更することもある。旬の食材を利用し、下ごしらえを一緒に行ったり、食事前の嚥下体操や庭での食事や外食などを取り入れ、食事を楽しむ支援をしている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	0	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が作成したものを基準として実施している。水分も一日1000ccを目安にお茶など飲んで頂いている。食事摂取量も状態に応じて記録している。		
42	0	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	研修等を通じて口腔内の清潔保持は肺炎の予防になることは理解しており、毎食後口腔ケアを状況に応じて介助にて実施している。また、毎日、義歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用するなどして、可能な限り、トイレにて排泄を行えるよう、必要に応じて複数にての介助を行い、本人の心理的不安感を与えないよう実施している。これらのことでおむつの使用量も少なくなっている。	排泄表に時間単位の排泄チェック表を設け、時間単位での確認で、本人の生活リズムを把握するように努めている。このような自立支援へむけて介護が行われた結果、オムツが外れた利用者もいる。	
44	0	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時、牛乳・ヤクルトを差し上げ、おやつにバナナを頻繁に取り入れるなど水分・繊維質及び適度な運動が不可欠であることの理解を職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	原則1週間に3回午後入浴をして頂いている。お湯の好み、入浴時間は本人の意向を尊重しているが曜日・時間帯については一人一人の希望の実現には至っていない。	体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけの言葉やタイミングを工夫し、気持ちよく入浴してもらうように努めている。	
46	0	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴・余暇活動・レクリエーション活動等を行うことで生活リズムを整える努力。不眠時は薬に頼らず、温かい飲み物を勧めたり、寄り添うなどして心が和むようにしている。		
47	0	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病、薬の種類・量・処方間隔等は説明書を所持し、理解、不明な点は必ず確認できるようにしている。内服薬は担当者が服薬直前に状況に応じて渡すなどし、服薬確認を実施している。		
48	0	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること（調理補助・食前後の準備片づけ・洗濯物たたみなど）をして頂いて生活の中に張り合い、役割が持てるよう原則一日1回は外の空気に触れることで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の希望に沿って出かけられるようにとまでは至っていない。しかしながら施設の特徴（テラスの設置）を生かし、戸外の空気に触れる機会を設けたり、地域の施設の協力を得て戸外に出かける為の支援を頂いている。	敷地が広く、庭に木々がきれいに植えられている。建物を囲むベランダにはイスが置かれ、天気の良い日はお茶会、花見や日光浴が行われている。また、本人の希望に応じて買い物、ドライブ、墓参りなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	0	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族には紛失の可能性があることへの理解を得た上でごく限られた利用者様に所持して頂いている。普段所持しておられない方も遠足等外出の機会を利用するなど支払をして頂く予定。		
51	0	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族へ電話をしたい、あるいは様子が感じられる時はして差し上げている。その際、子機を使用するなどして自室でゆっくり気兼ねなく、プライバシー、身体状況に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには季節の花を飾り、落ち着いて過ごせるよう心掛けている。トイレは悪臭がしないよう換気に気を付けている。台所はオープンになっており、調理の際の匂いがホールに漂い、利用者の食欲を刺激するなどしている。	共有空間には絵画や花が飾られ、リビングや廊下やベランダでは思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気はただよい、居心地よい空間となっている。	
53	0	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広く、隣館で相互交流ができ、気の合った同志、お話ができたり、隅のほうに行くと一人でゆっくりと過ごすこともできる。各自がホール内にその人なりの居場所を持つことが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの家具や仏壇を持って来て頂いて、本人が居心地良い雰囲気作りに努めている。個人用のテレビにて自室で好みの番組を視聴される方もおられる。	家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて仏壇、写真、扇風機、椅子、テレビ、ぬいぐるみなど馴染みのあるものが持ち込まれ居心地のよい空間となっている。	
55	0	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが広く出来ており、車椅子の方も自力で目的地まで行けるようになっている。自室・トイレ等解らない方には目印をつけたりするなどの工夫を行っている。洗面台も握れるようにとの配慮のものを設置している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域と共にあなたを支えます」を基本理念として謳い、毎朝申し送り時、職員全員で復唱することで確認、共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、施設の掲示板や回覧板にホームの便りを掲示、回覧するなどまた、職員も自治会員の役割としてごみ当番を果たすなどしています。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	当ホームが主体となり介護劇団を結成して介護の日等に始良市からの依頼を受け、介護劇、講演をするなど、子どもを対象とした認知症サポーター養成講座に係るなどの活動を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、地域（議員、民生委員、自治会）の代表、行政関係者（介護保険担当者）の方に参加を頂いている。評価の結果報告や状況報告を行い、意見等を頂き日々のケアに生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政主催の研修等にも参加し、担当者と適宜連絡を取り、相談・助言を頂いている。また、管理者は行政連絡員・自治会長等の役を活用するなどして、密に連絡を取り合っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設として、身体拘束排除宣言を行い、掲示してコールマット、センサー等を活用するなどして安全面に配慮、日中は玄関等鍵を掛けずに、人の出入りが自由にできるようにしている。このように職員全体で身体拘束ゼロを目指して実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送り時、利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）を職員で黙読することにおいて虐待行為についての確認を行い、利用者が気持ち良く生活して頂けるようケア、言葉かけなどに注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年末、退所された利用者に成年後見制度を利用されていた方がおられ、そのこともあり、管理者より職員に対し、この制度について説明を行うなどした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書・重要事項について説明を行い、不安なく過ごして頂けるよう努めている。退所時も段階を追って話し合いを持ち、関係機関との連携を取り、責任を持って行先を決めるまでの援助を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が参加して頂ける行事を多く設けることにより、家族相互の交流を図る。またこの機会を通じて介護職員との対話の時間を設ける。この様なことにおいて何でも言える雰囲気作りに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月二回のスタッフミーティング、必要に応じて個別面談等を実施。互助会を活用するなどして、より率直な意見の集約に努めるなどの工夫を行っている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	女性多の職場であることを踏まえ、保育園の送り迎え等に配慮するなどしている。また、資格を得た際に報奨金を出すなど、今年度から退職金制度を雇用者全額負担で導入するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得の研修会に参加できるよう、勤務の調整などを行い、多くの研修会により負担なく参加できるように研修費の負担を行っている。業務に支障のない限り、希望者全員参加できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修会の参加を通じて、他のグループホームとの情報・意見交換を行いサービスの向上に努めている。また介護劇団を通じての交流もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用前に必ず、面会を実施して、本人、触れ合いを通じてより、スムーズに利用ができるようにしている。また、必要に応じて、利用前に数回の面会を実施することもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記のことも踏まえ、家族のみならず、関係者（担当ケアマネージャー等）の方との面談を行い、入所時の記録として要望等を伺い記録として残すなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の計画において、まず何が当面の支援として必要か。このことに、特に本人の希望に配慮しつつ、御家族の心身の負担軽減に留意して端的に暫定プランを作成することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・ご家族・職員は「明倫館家族」の共に一員として、時に職員の家族も行事等に参加するなどして垣根を意識せずに暮らす仲間づくりを実践するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年度初めに年間事業計画を送付するなどして、遠方の御家族へも可能な限り施設の行事に参加して頂く体制を整え、行事の際手伝って頂いたり、草刈り等清掃活動にも協力してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の自治会に加入し、また地域で行われる催しに共催、参加するなどしている。例えば、花見も近くの公園を利用するなど、馴染みの場所にお連れするなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最近、同地域の利用者の方が多くなってきていることもあり、ユニット間の相互交流が常時できるよう配慮している。また孤立している時は、職員が寄り添うなどの配慮をおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された方はお見舞いに行ったり、再入所の希望の際は配慮を行っている。亡くなられた時は、通夜・告別式に参列や受付をするなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎朝、一人ひとりへの挨拶を行うことから始め、また思いを伝えることが難しい方もおられるが、毎日の関わりや家族との話し合い等を通して、ポジティブにと検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、自宅等を訪問するなど、これまでの生活状況などについては本人・家族・担当ケアマネ等関係者からの情報も得ている。その後も自宅を含め、関係者宅の訪問も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のこれまでの生活スタイルを重視し、本人の意思を尊重して、一日を過ごして頂いている。手仕事記憶の活用など、出来ることに注目して支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医師・スタッフの意見を反映したプランを作成は無論のこと。利用者の心身に変化が生じた際は再アセスメントを実施し、プランを作成している。モニタリングは一か月毎に実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を項目毎にケア記録等に記入し、変化が生じた時はケア記録のみならず、連絡帳等にも記入するなどして、逐次利用者の変化について職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方にいる方、高齢の方等家族の状況に配慮し、通院の送迎、付き添い、入院中の洗濯、衣類の準備、食事介助など適宜対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事等に保育園児の定期的な参加のみならず、地域の施設との協力して催しを実施するなどして地域資源の活用を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療計画の契約を結んでおり、主治医による月二回の往診を受けている。体調不良時は施設側で受診したり、往診して頂くことでの対応を実施している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置していることで、介護職員は勤務時間のみならず、適宜看護職員へ情報を送れる体制を取っている。また、会議等を通じて看護に対する勉強会を実施するなど看護・介護職員の関わりが来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、頻繁に面会に伺い、医師からの病状説明にも同席させて頂き、医療相談員等病院関係者との連携を取りながら、退院後の生活の相談・指導を受けている。また退院後通院の際にも経過報告するなど関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞き、ホームでどこまで出来るかを説明するなど納得して頂いた上で、終末に対する対応方針を決めている。無論直接、現在の病状を医師より説明して頂くと共にアドバイスを参考にして関係医療機関と連携を取り支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を配置していることを利点として、職員会議を利用するなどして研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食を準備していることは無論のこと、同敷地内の御家族にも協力を頂いて非常通報先として一番に駆けつけて頂けるよう関係を平常から結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の申し送り時、利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）にて確認を行い、利用者が気持ち良く生活して頂けるようケア、ことば掛けなどに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ポジティブプランは無論のこと、具体的に例を示すなどしたりして、思いを伝えやすいような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に、起床・食事・就寝などは、利用者一人一人のペースに合わせて行っている。しかしながら散歩・入浴は日課優先に行っていることはいなめない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服選びが可能な方は、自ら行って頂いたり、職員同伴にて買い物の際は選んで頂いている。パーマを希望される方もおられ、実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを取り入れたり、嫌いなものは他の献立に変更したり、食材の大きさ、形態も各自の状況に応じて行っている。準備・後片付けなど、声掛けを行い出来ることは手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が作成したものを基準として実施している。水分も一日1000ccを目安にお茶など飲んで頂いている。食事摂取量も状態に応じて記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	研修等を通じて口腔内の清潔保持は肺炎の予防になることは理解しており、毎食後口腔ケアを状況に応じて介助にて実施している。また、毎日、義歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用するなどして、可能な限り、トイレにて排泄を行えるよう、必要に応じて複数にての介助を行い、本人の心理的不安感を与えないよう実施している。これらのことでおむつの使用量も少なくなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時、牛乳・ヤクルトを差し上げ、おやつにバナナを頻繁に取り入れるなど水分・繊維質及び適度な運動が不可欠であることの理解を職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	原則1週間に3回午後入浴をして頂いている。お湯の好み、入浴時間は本人の意向を尊重しているが曜日・時間帯については一人一人の希望の実現には至っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴・余暇活動・レクリエーション活動等を行うことで生活リズムを整える努力。不眠時は薬に頼らず、温かい飲み物を勧めたり、寄り添うなどして心が和むようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病、薬の種類・量・処方間隔等は説明書を所持し、理解、不明な点は必ず確認できるようにしている。内服薬は担当者が服薬直前に状況に応じて渡すなどし、服薬確認を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること（調理補助・食前後の準備片づけ・洗濯物たたみなど）をして頂いて生活の中に張り合い、役割が持てるよう原則一日1回は外の空気に触れることで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の希望に沿って出かけられるようにとまでは至っていない。しかしながら施設の特徴（テラスの設置）を生かし、戸外の空気に触れる機会を設けたり、地域の施設の協力を得て戸外に出かける為の支援を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族には紛失の可能性があることへの理解を得た上でごく限られた利用者様に所持して頂いている。普段所持しておられない方も遠足等外出の機会を利用するなど支払をして頂く予定。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族へ電話をしたい、あるいは様子が感じられる時は差し上げている。その際、子機を使用するなどして自室でゆっくり気兼ねなく、プライバシー、身体状況に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには季節の花を飾り、落ち着いて過ごせるよう心掛けています。トイレは悪臭がしないよう換気に気を付けています。台所はオープンになっており、調理の際の匂いがホールに漂い、利用者の食欲を刺激するなどしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広く、隣館で相互交流ができ、気の合った同志、お話ができたり、隅のほうに行くと一人でゆっくりと過ごすこともできる。各自がホール内にその人なりの居場所を持つことが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの家具や仏壇を持って来て頂いて、本人が居心地良い雰囲気作りに努めている。個人用のテレビにて自室で好みの番組を視聴される方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが広く出来ており、車椅子の方も自力で目的地まで行けるようになっている。自室・トイレ等解らない方には目印をつけたりするなどの工夫を行っている。洗面台も握れるようにとの配慮のものを設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない